

FREE ^{JMUV} vol.33
Aug. 2018



SPECIAL FRONT INTERVIEW

EXILE

(EXILE AKIRA × EXILE NESMITH × 世界)

SPECIAL INTERVIEW

Leola

SPECIAL COLUMN

EXILE TETSUYA

JAPAN MOVE UP WEST

日本を元気にする為に!

54
JAPAN MOVE UP WEST



自分の住む“まち”に夢、憧れ、成長を。

『JAPAN MOVE UP WEST』は子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける…
それが企業を、まちを、発展させ岡山から中四国へ、そして日本を元気にしていく事だと確信します。

JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会 加盟企業一覧 (2018年8月11日現在)

CITY LIGHT TYPEX co.,ltd. VERMORE Lee GROUP 株式会社 石井事務機センター

KIRIN SAITO PRINTING CO., LTD. M&A 株式会社 笹山板金

株式会社 祥 株式会社DMM.com アシード株式会社

special partner コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 イオンモール岡山

JAPAN MOVE UP WEST 賛同企業加盟・その他お問い合わせは右記まで JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会運営事務局(株式会社HEADLINE WEST)/TEL.086-250-8089

JAPAN MOVE UP WEST

●発行人/源 眞典(株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治(株式会社ヘッドライン)

●発行所/株式会社HEADLINE WEST 〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング1F TEL.086-250-8089

隔月刊【ジャパムーブアップウエスト】2018年8月11日発行 vol.33 August

※本誌の売買・交換(金品を代価とする譲渡)一切禁止。本誌または掲載内容のすべての著作権は発行元に準ずる。

HEADLINE WEST

平成30年7月豪雨、被災された皆様へ

7月の豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧を願っております。

JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会

EXILE AKIRA EXILE NESMITH 世界

SPECIAL FRONT INTERVIEW

EXILEがいよいよ動き出した!

年明けから「EXILE FRIDAY」と題して、6カ月連続で毎月新曲をリリース。5月にはステージで再始動後初のパフォーマンスを披露して、完全復活を印象づけた。先月7月25日には、待望のニューアルバム『STAR OF WISH』を発表。9月からはドームツアー「EXILE LIVE TOUR 2018-2019 “STAR OF WISH”」がスタートする。

新メンバーの加入、オリジナルメンバーのパフォーマー勇退などここ数年間で、大きな変化を経験したEXILEは、ボーカルATSUSHIの留学をきっかけに、約2年半の充電期間を持った。その間に各メンバーは、EXILE THE SECOND、三代目J Soul Brothers、GENERATIONS、FANTASTICSなど別グループでの活動や音楽以外の分野で力を発揮。「For EXILE」の想いを胸に、個々で自分自身を磨いた。

輝きを増したメンバーが集結し新たにスタートするのは「NEW EXILE」。充電期間前のグループに「戻る」のではなく、新しいEXILEを「生み出していく」。

全国ツアーの開幕も近づいてきた。15人の新たな体制で臨むツアーだけに、準備も自然といつも以上に入念になる。そこには、EXILE TRIBEを束ねる長として、圧倒的なエンターテインメントを提示してオーディエンスを楽しませること、そして自身に続く後輩グループにゆるぎない大きな背中を見せなければならない使命がある。EXILEはどうあるべきなのか――。

EXILE AKIRA、EXILE NESMITH、そして世界。EXILEを構成する異なる3世代に、EXILEについて、そしてEXILEへの想いを聞く!

撮影・葛野裕 ヘアメイク・MAKOTO (AKIRA)、大木利保 (NESMITH・世界) スタイリング・葛西“JUMBO”克哉



NEW EXILEの底力を見せつけます。
15人ならではの圧巻のステージを目指します。

——いよいよ、EXILEが本格的に動き出しました。EXILE THE SECOND(以下、SECOND)のツアーファイナルでのサプライズ出演はファンに向けた完全復活宣言になったと思いますが、あの時はどんな気持ちでステージに立っていましたか？

EXILE AKIRA (以下、AKIRA) :まずはSECONDファンの皆さまには、あの場を借りて完全復活を実現できたこと、EXILEファンにはお待たせしましたという思いです。すべての人に感謝の気持ちでいっぱいでした。特にSECONDメンバー5人がいなかったらきっとあのステージまでたどり着けなかったと思います。SECONDで走ってきた、2年半はみんなで、「For EXILE」の精神で走ってきました。本当に5人がいなければ、NEW EXILEは誕生しなかったなので、感謝の気持ちでいっぱいでした。

世界:僕たち(SECOND)には属していないEXILEメンバー)は、やるぞ!っていきり立ってましたね(笑)

AKIRA:声援がね、本当にすごかった。EXILEって特別なんです。盛り上がり方が違う。説明しにくいんですけど、声援っていうより応援かな。EXILEというチームを皆さまが支えてくれている感じがしました。EXILEってやはりスペシャルな存在なんだから、あのステージに立って感じました。

——久しぶりにEXILEとして受ける声援。格別ですよ。

AKIRA:この2年半はグループにとって、そして個人個人にとって大事だったなって思っています。

——メンバーはEXILEから離れ、再集結しました。離れている間も、今も、「EXILE」について考えることは少なくなかったと思います。いま、それぞれの想いを聞きながら、感じることはありますか？

EXILE NESMITH (以下、NESMITH) :EXILEとして目指している方向は同じだし、思考も近いので、改めて発見することはあまりないんですけど、なんとなく思っていたことを言葉にしてもらうことで確認できる感じはありますね、「分かる分かる」って。

AKIRA:お互いが感じたり考えていることを改めて認識することでチームワークが強くなっている感じはあります。SECONDやFANTASTICSというグループやそれぞれが個人や各グループでのアプローチをしてきた2年半だったので、「For EXILE」でやってきた時間、その間にやってきたことをみんなですれすれ共有しています。

世界:僕は安堵感ですね、やってきたことは間違っ
てなかったなっていう。



——世界さんは、AKIRAさんやNESMITHさんに比べると、EXILEでの経験が少ないですし、自分の磨き方が正しいかどうかって考えちゃいますよね。

世界：僕らが加入してから活動休止になるまでは2年ぐらいで、場数や経験値もそうですけど、EXILEとして培った時間や想いを共有する時間も少なかった。その中で、EXILEのメンバーとしてどう経験値を積んでいくのか考えなければなりません。僕は「どうやったらEXILEとして輝けるのか」を考えながらFANTASTICSでの活動に力を入れたのですが、今はその経験を通じて、先輩方の想いに共感を覚えることができたりして、自分がやってきたことは正しかったんだなって感じています。あのタイミングでFANTASTICSが結成されてなかったら、現時点でのEXILEの世界はたぶんもっともっと未熟だったと思います。その自分の未熟さも痛感できた有意義な時間でした。EXILEとして、アーティストとして自分を育てる道しるべというか土台が強くなった気がしています。

——AKIRAさんは、世界さんを筆頭としたEXILEの新世代メンバーの心中を聞いて、思うところはありますか？

AKIRA：世界はFANTASTICSでリーダーの立場で活動したことが大きな成長につながって、前よりも輝いてEXILEに戻ってきてくれました。とても、うれしいですね。活動休止期間に入る前の自分のことを率直に話すと、世界もそうですが、(佐藤)大樹、岩ちゃん(岩田剛典)や(関口)メンディー、(白濱)亜嵐といった新しいメンバーに「EXILE」という場所を与えられないことに歯がゆさを感じていました。僕自身がオリジナルメンバーと一緒に時間を日々共有しながらパフォーマンス力を向上させてきたし、絆も強くなったと思っています。変な意味じゃなく、自分たちに自信を持てる瞬間もあって、それをみんなにも味わってほしかった。だけど、その時はまだ未熟でそこまでたどり着けなかった。

——同じ時間、同じ場所、同じ経験を共有することって大事なことですよね。

AKIRA：それに、EXILEの中心である、オリジナルメンバーがいなくなって、EXILEをどう動かしていったらいいのかっていう時期でもあって、自分自身、「NEW EXILE」を起動させていくうえでどうアプローチしていくかということメンバーみんなに見せることもできなかった。それだけEXILEというグループは大きかったし、繊細な場でした。この2年半は、EXILEが成長するためにむしろ進化させるために必要な時間だったんだと思います。

——EXILEは2001年にデビューしてから猛スピードで進みながら「進化」や「深化」してきたと感じています。具体的なきっかけはATSUSHIさんの留学だったのかもしれないですけど、今回ばかりは止まらなければ進めなかった。

AKIRA：EXILEはずっと時代とタイミングに合わせたアプローチをしてきたと思っていますけど、今回は初めて活動を止めさせた。僕らだけが感じる不安やプレッシャーです。でもEXILEがこれからも進んでいくうえで、いい経験になったと思います。

——必然だったんでしょうね。

AKIRA：2018年以降という未来を目指して、それぞれがそれぞれの道に行った時間。その結果、15人全員があの時と比べると、輝きを増し、パワーアップしている。それぞれがリーダーシップを持っている。今はもうワクワクしかないですよ！

——現在のEXILEは、文字通り「NEW EXILE」の雰囲気を感じています。ニューアルバム『STAR OF WISH』からもフレッシュさを感じます。

NESMITH：今までとは違うEXILEが聞かされているかなとは思っています。分かりやすいところで言うと、収録曲にはSHOKICHIが制作した楽曲があったりするんですよ。

AKIRA：これまで音楽面はATSUSHI君が引っ張ってくださってましたが、ヒップホップやロック調はSHOKICHI、NESMITH、TAKAHIROだったらこういう曲って、ATSUSHI君が振り分けていました。ATSUSHI君も留学しながらTAKAHIROやSHOKICHI、NESMITHの成長を感じていたんじゃないのかな。ごく自然な感じで、そういった制作スタイルになっていたんですよ。以前より、4ボーカルの楽曲が増えました。これもNEW EXILEの強みだと思います。

NESMITH：自分たちで発信しているという感じがより強くなった感じがあります。

AKIRA：パフォーマンスの部分でもそういうのが進んできていて、世界も新曲の新しい振りを作って持ってきたり。

世界：やりたいんです。前は置いていかれないようにするのに必死でしたけど、一緒に過ごす時間が増える中で、EXILEのメンバーに受け入れられている実感もありますし、意見も言えるようになってきましたし。

以前より、4ボーカルの楽曲が増えました。
これもNEW EXILEの強みだと思います。

前は置いていかれないようにするのに必死でしたけど、一緒に過ごす時間が増える中で、EXILEのメンバーに受け入れられている実感もあります。

――さて、そうした楽曲を携えて、本当に待望されているツアーがスタートします。開幕も迫ってきましたね。

AKIRA: NEW EXILEの底力を見せつけます。15人ならではの圧巻のステージを目指します。

世界: 新曲も多いですし。

NESMITH: 15人ですから、フォーメーションだったり……そうですね! 『Choo Choo TRAIN』で誰が一番前なのかは気になりますよね!

AKIRA: 日替わりはどうだろう? (笑)

世界: それはプレッシャーがヤバいですね。一番前は、本当に緊張するんですよ。カウントを考えて回らなければいけないですから。後ろはまあ、こう言ってしまうとなんなんですが、うまく見えるようにしていくだけです。

――見たくても見られなかったEXILEのライブ、期待されている部分も多いと思います。その中には、皆さんもおっしゃるように、「EXILEはやっぱりスペシャルだ」って感じたいというのもあると思います。

AKIRA: これからEXILEがどういった存在になっていくのか。その答えが見えてくるツアーでもあると思います。一歩ずつ進んで、1つずつ積み重ねて、その先にEXILEの在り方が見えてくる。

NESMITH: 僕も、新しく、ゼロからEXILEを作っていく感じています。僕ら15人のエネルギーや輝き、自分たちのなかで燃えているものはすごく、自分で言うのも何ですけど、まぶしいくらい輝いています。輝きを増しながら、作り上げていくEXILEはどんなんだろう。ワクワクしかありません。

世界: 僕もです!

――「NEW EXILE」を見られるのを楽しみにしています!

EXILE LIVE TOUR 2018-2019 “STAR OF WISH” 9月、ついに開幕!!

輝ける 15 人で臨む、全国ドームツアー

3年ぶりとなるドームツアーは、9月15日に京セラドーム大阪からスタートし、2019年まで続く。アルバムやツアーの詳細や最新情報は、オフィシャルウェブサイト <http://exile.jp/> で。

New Album 『STAR OF WISH』 発売中



『EXILE FRIDAY』で発表された6曲に加え、日清「カップヌードル」CMソング「Heads or Tails」など全14曲を収録している。

【CD+3DVD】7480円、【CD+3Blu-ray】7980円、
【CD+DVD】3980円、【CD+Blu-ray】4480円、
【CD ONLY】3000円。すべて税込。

大切な人を想うとき、
大切な人といるとき、
そこに私の歌が寄り添えたら幸せ。

Leola

Special Interview

最新ミニアルバム『LOVE,LIFE&LAUGHTER』を
Leola本人に全曲解説してもらいました。
それぞれの楽曲に込めた想いを感じ取ってください。

衣装：JEANS FACTORY photography：宗村 和磨 (NEMURA FILMS)

Magic Clap LAUGHTER

「Magic Clap」は、LAUGHTER(笑い声)がテーマになっているんですけど、夏のパーティーチューンになる様な「皆で楽しむ夏」をイメージしています。学校もそうだし仕事もそうだし、焦ってしまっている時や、何かでいっぱいいっぱいになっている時って自分の思ってもいないような強い発言をしてしまったり、笑顔になれない時が誰にでもあると思うんです。もっとこういう言い方ができたら、こういう顔ができてたら、上手く伝えられるのにと私自身が感じることもあるし、誰かを見ててそう感じる時もあるって、そんな時に「そんな顔してたら幸せ逃げちゃうよ」って言えばいいなと思っていて、一緒に音楽に合わせて手を叩いて体を揺らせば楽しい時間を過ごせるし、大変なのは分かっているけど、辛いことも一回忘れて今を楽しもうよというメッセージを込めた楽曲になっています。

RIDE ON TIME LIFE

ビーチカルチャーだったりサーフカルチャーの音楽を、先駆けて表現されている山下達郎さんの楽曲をカバーさせていただきました。誰でも「RIDE ON TIME」の頭の「青い〜」を聴くと、海が思い浮かぶし、空が思い浮かぶ、そんな曲って中々ないと思うんです。私自身も、夏になったら絶対聞いているし、そういう楽曲をいつか歌いたかったというのももちろんなんですけど、私のライブに来てくれるファンの皆さんの中で中学生の子や、小学校を卒業したばかりの子達も多くて、そういうファンの子達に、こんなカッコいい曲があるんだよという橋渡しになればいいなと思っていました。リアルタイムで聞いてきた世代の皆様にも、「RIDE ON TIME」が入っている事で、一緒に楽しい夏をこの一枚で過ごせたらいいなと思って入れさせていただきました。アレンジする時は、リスペクトを込めてできるだけ原曲に忠実にということをお気をつけているんですけど、私なりに今っぽさだったり、女子だからできる声の爽やかなところって言うのをプラスしてアレンジしました。

Beautiful day LOVE & LAUGHTER

今年の2月に奄美大島に旅にいったんですけどその時に作った楽曲で、良い事もあれば必ず悪い事もあるというのが人生だと私は捉えていて、今が良くてもこの先悪い事があるかもしれないし、今が悪くても多分また笑っているでしょというその人生が波みたいだなと思って、今すごく上手いかなと嘆いている人がいたら、その今があるから、幸せな時に幸せって思えるんだよというのを書いた曲です。すごく緩やかなムードで、お気楽な感じで楽しく、例えば夕方にチルな感じで波の音を聞きながら、空の下で揺れて聴いている様なシチュエーションがすごく似合う楽曲になっています。



NOW ON SALE!

New Mini Album
LOVE, LIFE & LAUGHTER

Sunshine & Happiness LOVE & LAUGHTER

4 Just a Love song LOVE

この楽曲はミニアルバムのリード曲になります。この楽曲を作るとき最初の根源になった気持ちというのは、大切な人と過ごす時間には限りがあるなとすごくこの1年で考える事が多くて。例えばニュースを見ていて、良くないニュースが飛び交う中で、自分の家族や大切な人に対して置き換えた時に、離れた時間というふうに考えがちなんですけど、それをどうやって大切だという気持ちを伝えて、後悔のないように幸せと一緒に過ごすかということを書いて歌にしたいと思ったんです。今回は恋人に対する歌として作らせてもらっていますが、サビの最後に「限りある時間」「限りのない愛を重ねていこう」という想いを込めて歌詞をつけたんですけど、それは家族でも恋人でも関係なく、幸せな時間だからこそ、それを大切にしなければいけないという想いを書いた曲です。テーマは重いんですけど、アレンジだったり歌詞の世界感で、夏に合う様な疾走感のある爽やかな楽曲になっています。

今までで一番パーソナルな感じのラブソングを作りました。楽器も音数を減らして、恋人が隣で歌っている様なイメージで、愛する人に向けてこの先も見据えた永遠の愛というのを一回書いてみたいかなと思って作った楽曲です。今までもラブソングが多かったんですけど、爽やかさではなく、もっと深い所で響く様な楽曲になっていたら良いと思います。

――『LOVE, LIFE & LAUGHTER』をどんな時に聴いて欲しいですか？

今回の5曲の楽曲は、朝に合う楽曲もあれば、夜にも合う楽曲もあり、お昼間の爽やかな時間や夕方の気持ちのいい時間帯に合う楽曲もあるので、1人で聞いたら大切な人が思い浮かぶと思うし、誰かと一緒に聞いていたら、その時の気持ちが相手に伝わるようなアルバムになっています。「あれ？こんな事思ってたの？」ってちょっと思わせちゃうかもしれないです(笑) 特に「Just a Love song」は、本当に歌う時に気をつけないと伝わりますね(笑)

――たくさんの歌詞を書いてこられたLeolaさんですが、昔から人生を考えるタイプだったのですか？

デビューまでの時間ですごく色々考えましたね。オーディションで上手く行って、「良い!」となった時と、そこから「でもやっぱり全然ダメだ」となった時が繰り返された時に、人生を振り返ったりはしましたね。そういった経験が、いつもポジティブでいたい、前向きでいることが幸せを呼んでいる様な気がしました。壮絶な人生を送ってきた訳じゃないんですけど、本当に普通なんですけど何か大切なことに気付いたら人生って豊かになるなと感じています。

初回生産限定盤



LOVE, LIFE & LAUGHTER【初回生産限定盤】
¥2,593+税
品番: AICL-3531 ~ AICL-3532

通常盤



LOVE, LIFE & LAUGHTER【通常盤】
¥1,667+税
品番: AICL-3533



素顔の仲間選手に
11問11答でお答えいただきました!!

01.チーム内でのニックネームは?

—— **はやと**

02.周りからどんな人って言われる?

—— **元気** があって
うるさい やつ(笑)

03.気分を上げるときに聴く音楽は?

—— **ケツメイシ全般**

04.試合前に必ずやることは?

—— ルーティンを
**決めてないことが
ルーティン(笑)**
流れに任せています。

05.今一番注目している人物は?

—— **う〜ん。** (とても悩んで絞りだしてくれました!)
ミャンマー出身の俳優 **“森崎ウィンさん”**
面白くてカッコいいので!(笑) 注目してほしいな!

06.チームメイトの中で1日入れ替わるなら誰になって何をしたい?

—— **#5増田です!マグ!(笑)**
あの身長(190cm)からの
景色を見てみたい!(笑)

07.いつもカバンの中に入っているものは?

—— **本** 時間がある時、いつでも読めるように入れています!

08.好きな女性のヘアスタイルは?

—— うーん。
ロングの方が好きかな?照

09.仲の良いチームメイトは?

—— **#5増田です。**
即答!(笑)

10.女性から言われて嬉しいセリフは?

—— **オシャレじゃないんだけど“オシャレだね”**
って言われると自分のセンスを褒められたみたいで嬉しいかも!
言われたことないですけど(笑)

11.いちばんの宝物は?

—— やっぱ**家族**ですね。



54 ×
JAPAN MOVE UP WEST



選手のここでしか見る事の出来ない素顔を知って地元Jリーグチームを応援しよう!

vol.3 仲間隼斗



19MF

仲間 隼斗 - なかま はやと - 1992年5月16日 170cm/64kg 群馬県出身

1問1問の質問を真剣に考えて答えてくれる様子からとても真面目で紳士、だけど面白い一面もある仲間選手の姿を感じることできたインタビューだった。また、西日本豪雨で被害を受けた被災地へファジアーノの試合でサポーターが提供してくれたノートやクレヨンを子供たちに渡しに行った時に、一緒にサッカーをして遊び、厳しい環境の中でも元気に遊んでもっと一緒にサッカーしたいと言って楽しんでくれた子供たちの笑顔を見た時がとても嬉しく、たくさんのエネルギーをもらった。と被災地訪問のエピソードも語ってくれた。

DANCEの道

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column

Feel Rich

皆さんはどんな時、心に豊かさを感じていますか？ 豊かといっても人それぞれに違うと思いますが、家族が笑顔な時、美味しいものを食べた時、友達と遊んでいる時、綺麗な景色を見た時など、大きくても小さくても心にハッピーを感じた時に、満たされる感覚を感じます。もしかしたら当たり前の事ですが、そんな時に自分はハッピーであると、認識する事が大切なんだと思います。先日とある知り合いが、今日の夕陽は綺麗だよ！と教えてくれて、その時にいた友達たちと SUNSET を眺めていた時に、とても心の豊かさを感じました。毎日とても早いスピードで時間が流れている中、1日に一度、必ずある夕陽に、ここまで感動できた事に、自分が満たされた心の豊かさは、とても素敵な時間でした。そんな瞬間はもしもしたら、毎日の当たり前の中にたくさんあるのかもしれない、ただその瞬間を、自ら時間を止めて豊かであると感じる事は、全て自分次第だという事なのかな？と僕に教えてくれた SUNSET でした。

そんな SUNSET を魅せてくれた場所は、僕の地元、YO KOSUKA です。

実はこの度、僕がプロデュースする coffee shop、AM AZING COFFEE の4号店が、7月8日に、横須賀の秋谷海岸にてオープンさせていただく事になりました！リハーサルや仕事の現場への差し入れから始まり、居酒屋めぐざいる、中目黒、横浜、大阪へと進化して来た AMAZING COFFEE は、いつもたくさんの方々へ愛していただ

き、本当に感謝しています。今回も、出会いやタイミングに恵まれて、自分の地元・横須賀で1番好きな場所である、秋谷海岸にお店を作れたことは、本当にハッピーな出来事であり感謝です。

ふと海が見たくなったり、夕陽を眺めたくなると、秋谷海岸へ行き、地元 TIME を過ごしていました。ここでみる景色は、相模湾と富士山、そして SUN SET と、素晴らしい最高の豊かさを感じさせてくれます。そんな場所を皆さんとシェアできる事になったので、ぜひ足をお運びいただけたらうれしいです。STEP UP をする度に、大変な事もありますが、ハッピーをさらに拡大できるように、スタッフ一同おもてなしの心を込めて、頑張っていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します！

そして、今月は何といっても7月14、15、16日に行われる、DANCE EARTH FESTIVAL 2018 が、メインイベントです！

先日発表になりました、DANCE EARTH PARTY の新曲3曲連続配信が決定し、その新曲がこのフェスで初披露パフォーマンスという事で、気合入れて曲も振り付けも作らせていただきました！

まず、14日に初披露となる、GENERATIONS とのコラボ曲、『HAPPILA』は、USA さんの長年の夢であった、オリジナルキーラのネーミングという事で、その名の通

り、とてもハッピーで、飲んで踊りたくなる楽曲になりました！ GENERATIONS のみんなと振り付けも作れて、ステージで踊るのが楽しみです！

15日に初披露となるのは『It Must Be Love』。セクシーな New jack swing がたまらない、極上な一曲です。今回のフェスのステージでは、その日にしか見られない、PARTY を組んで、スペシャルパフォーマンスをお届けしたいと思っています！

そして、16日の初披露は、前回のフェスにも参加していた、MOOMIN さんの代表作『MOONLIGHT DANCEHALL』を DEP と共に新しい形でアレンジさせていただき『MOONLIGHT DANCEHALL ~ another story ~』として、コラボレーションしていただきました。このオリジナル曲は、僕が学生時代に大好きで毎日のように聞いていた曲です(笑)。今回、MOOMIN さんにコラボをご提案させていただいたところ快く受け入れてくださり、完成しました！見上げた星空を皆さんと一緒に見たいですね！

遂に、「夏フェス」へと生まれ変わった、DANCE EARTH FESTIVAL は今回、Avenue「虹」をテーマに、来ていただいた皆さんと一緒に、大きな大きな虹を、心をこめて作りしたいと思いますので、ぜひぜひお楽しみに！

虹を見るには、雨粒が必要なので、皆さま水に濡れても良い準備をお願いします(^o^)/ TOKYO HEADLINE vol.708 より



19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目 J Soul Brothers のメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日に EXILE 新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILE としても活動を始める。また、個人活動として2011年に月刊 EXILE にて、自身が所長を務める『EXILE パフォーマンス研究所』の連載を開始する。2014年4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月に EXILE USA が活動を行っている DANCE EARTH PARTY の正式メンバーに選ばれる。2018年3月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。

DANCE CUP 2018 岡山予選開催!!

EXILE USA、サプライズ登場。

7月24日(火)イオンモール岡山未来スクエアでDANCE CUP 2018 岡山予選が行われた。

夏休みということもあり中国地方から多くの参加者が会場に集まり約3時間の熱戦が繰り広げられた。この日優勝チームのプレゼンターとしてオフィシャルサポーターでもある EXILE USA がサプライズ登場。子供向け番組にも出演している USA、参加した子供達は大喜び、大きな歓声があがり会場はさらに盛り上がった。USA は夢を追う子供達にエールを贈り約1000人が見守る中、会場を後にした。

DANCE CUP 2018 岡山予選 FINALIST

小学生部門:

Burnilla / FillyAster

中学生部門:

Baby'st / Fifth Gal man

【DANCE CUP】

小中学生に大きな夢を持ってダンスに取り組んでほしいとの想いから始まったストリートダンスコンテスト(株式会社LDH JAPAN主催)。2014年にスタートし今年で5回目の開催。岡山予選は西日本豪雨の影響で大会が延期、7月24日(火)に開催された。

公式HP:<http://dancecup.jp>



シンガー
KENGO
けんご

04 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST ARTIST

苦労や辛いことは夢を持っている
人の為にあるものです。

玉川(以下、玉):音楽を始めた頃の事や、きっかけを聞かせてください。

KENGO(以下、K):僕自身始めは音楽関係の知り合いが全くないところからのスタートでした。当時はもう既にSNSが流行っていて、とりあえず地元で音楽をしている人たちにひたすらSNSを使って、メッセージを送り続けました。そこからビートボックスをしている人と仲良くなりユニットを組むことに。それがきっかけで路上でも歌うようになり、クラブでも歌うようになり。そういった色々な状況を経て、今はシンガーKENGOとして、高知県を拠点に歌を届けています。

玉:先日アルバム『Lights In Darkness』をリリースされたということで、このアルバムに対する思いを教えてください。

K:実はこのアルバム、リリースに行き着くまでに3年もかかってしまったんです(笑) 当時出していたシングルCDが決して好調ではなかった。果たしてその現状でアルバムを出して売れるのか。そんな葛藤が自分の中にありました。なので、当時出していたシングルを全て売り切ってからアルバムを発売しようと思い、頑張っていました。だからそれなりに時間もかかった。そういった意味では、このアルバムは今までの集大成って感じですね。そして今の自分を真っ直ぐに表現できた作品になったと思います。是非みなさんに聴いていただきたいです。

玉:音楽を通して思うこと、伝えたいことはありますか?

K:音楽活動を続けていると、辛いことも理不尽なことも沢山あります。そして日々周囲の人々も変わっていき、取り巻く環境も変わっていく。同じことを続けていくって中々孤独な事なんだなって感じることも少なくない。だからこそいつも側にいてくれる人たちは本当にありがたいと思います。逆に、色々な場面で関わらなくなってしまった人たちのこともよく思い出します。ですが、そういう人たちに後々耳に届くような活動ができていけばいいなって思いますね。

玉:これからの夢や目標を教えてください。

K:目標は毎年少なくともアルバム1枚を必ずリリースすること。夢は、県内外問わず色々なイベントに沢山呼んでもらい、ワンマンライブもしっかりと開催出来る。そんな中で自分の実力やパフォーマンスがもっともっと伴ってくれば、自然と成長できるだろうと僕は思っています。なので特に、これというものは決めず常に自分自身と向き合っ、自分の描く理想に向けて頑張っていきたいと思っています。

photography: 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)



KENGO けんご (写真左)
シンガー
twitter: @kenx2_go
高知県出身、拠点として活動中。



Interviewer 玉川洋輔 (写真右)
シンガー・ソングライター
facebook・Twitter・Instagram:
玉川洋輔で検索

――アイテムに馬(オマハ)との写真を選んだ理由を教えてください。

中田晴香(以下:中):私が競技をはじめてからずっとオマハで競技に出てきたので、今までの競技人生の全てを彼と歩んできました。私にとって必要不可欠なかけがえのない存在だったので、パートナーである馬を選びました。

――中田さんが馬術をはじめたきっかけを教えてください。

中:子供の頃から動物が好きで、体験乗馬に行ったりしていたんですけど、本格的に馬に乗りはじめたのは小学6年生の時。最初は趣味程度で乗馬をしていました。その時に、両親から「本格的に競技に挑戦するんだったらクラブを移った方が良い」とアドバイスを受けて、現在の練習場所である蒜山ホースパークに移りました。そこで、2016年のリオオリンピックにも出場された原田喜市さんと出会って、トレーナーとして指導していただけることになり競技をはじめたのがきっかけです。

――馬に対する恐怖心だったり、挫折したことはあったんでしょうか?

中:元々動物も馬も好きだったので恐怖心はなかったです。落馬も何度もしましたし、その衝撃で脳震盪なども起こしたことはあるんですけど、落ちたから辞めたいとか怖いというよりも、落ちた自分に悔しくて「下手だから落ちる」と思っていたので、落馬することで練習にも力が入りましたし燃えましたね。もう人生の半分馬術をしているんですけど、挫折はなかったです。同い年の選手たちが、全日本ジュニア選手権などで活躍している中で私は7位、8位止まりで、「なんで人一倍練習しているはずなのに結果が出ないんだろう」と思ったことはあったんですけど、だからこそもっと練習も頑張れました。

――岡山県代表として国体に出場した時の気持ちを教えてください。

中:去年が7回目の国体だったんですけど、岡山県の成績を上げないといけないですし、自分だけではなくてチームみんなで成績を残さないといけないので、国体は一層気を引き締めて出場しています。去年の国体は、競技がはじまった瞬間から「今回はいけるかもしれない」という自信がありました。普段から試合で緊張することはあまりないんですけど、それ以上に楽しんで競技に挑むことができ、その結果、国体3位という結果に繋がりました。

――馬術競技の魅力はどんなところにあるんでしょうか?

中:動物を相手にしているスポーツって馬の競技しかないんで、その時々で馬の機嫌によって競技も左右されることもあるんですけど、競技を共にする相手が生きていて動物であるということは馬術の魅力だと思います。

――中田さんにとって馬とはどんな存在でしょうか?

中:馬って大きい犬のような感じですがごく人間に懐いてくれて、私が落ち込んでいる時は顔を寄せてきて慰めてくれたり、馬に会うと嫌なことを全部忘れられるんです。馬がいなかったら私も活躍できないですし、本当にかげがえのない大切な存在です。

――今後の夢を教えてください。

中:夢は、生涯現役でいることです!おばあちゃんになっても死ぬまで馬に乗り続けることが夢であり目標です。あとは、海外の競技はすごくレベルが高いので海外の競技にも挑戦したいです。

夢は、生涯現役。
おばあちゃんになっても
馬に乗り続けたい。

馬場馬術競技 岡山県代表選手

中田晴香
Nakada Haruka

Profile

中田 晴香 Nakada Haruka

愛媛国体 2017

成年女子自由演技馬場馬術競技 第3位
岡山県在住 1993年7月30日生

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)

———絵を描かれるようになったきっかけを教えてください。

神宝麻衣(以下:神):小さい時から絵が好きで描いていました。専門学校時代の文化祭でライブペイントをする機会があり、見てくださったお客さんだったり、声掛けして下さる方々がいて。一番印象深かったのが、通りがかりの女性カメラマンの方に“いきいき描いているので是非専属のカメラマンをさせてください”と声掛けして下さって。こんなにも喜んでいただける方々がいらっしゃるのを目の当たりにして“これが仕事でできたらすごい楽しいんじゃないか、天職になるんじゃないか”と思って。自分がペインターとして何か続けていけたらなと思ったのがきっかけです。

———「女性」と「花」を鮮やかに描かれているような印象ですが、イメージやテーマはありますか。

神:女性を描くというのは“誰かに何かしてあげたい”とか“誰かに描いてあげたい”という気持ちとはまったく違う自分を表現するタイミングで、それがたまたま女性のモチーフだったんです。描いているうちに嬉しかったり悲しかったりする感情を絵に当てはめていて、ある意味自分のような存在なのかもしれないです。そんなふうに関わり合うイメージで自然と描いてきました。お花のモチーフについては女性を描いたときの表現方法のひとつとして“創造の花”を描いていました。最近気付いたんですけど、その花をよく見ると自分の部屋の壁紙と同じような柄なんです(笑) 知らず知らずのうちに身近なものからも影響を受けているのかなと思っています。

———着物でライブイベントをされていますが着物はこういった物なのでしょうか。

神:特に意識はしていませんでしたが、ライブペイントをご依頼いただいたタイミングが周年祭だったりお祝い事が多かったんです。でしたら正装で行こうかなと。着物を着て描いていると絵の具が着物に付くのではないかと“あやうい”感じも見ての方が楽しんで下さって、“着物いいね”ってお言葉をいただきます。自身も身が引き締まる思いもしますし、日本のテイストを取り入れることが多いので自身に合っているのかなと思っています。

———イベントなどで絵を描くにあたって大切にしている事はありますか。

神:ライブペイントではお客さんが喋り掛けてくださった事とか会場のBGMとか空気感などをできるだけ表現することをとても意識しています。色だとか形とかステージに立ったときに感じたインスピレーションです。ですので事前に準備して、というよりその場で浮かんだものを大切に描いています。後、見てくださった方が最後まで見て楽しめるようなものを意識しています。最初こんな感じだったけど最後こうなるんだ! と思っていたるように。

———挫折はありましたか。また、それをどのように乗り越えましたか。

神:専門学校の卒業製作で自分が思うような作品ができなかったんです。たくさん時間を使って準備したのに全然思うようにいかなくて、いい作品ができませんでした。できないのは向いてないんじゃないかと、向いてないってことは今後何をして生きていけばいいんだろうと。何も手がかからないくらい落ち込んでいた時に、父に“自分が選んで進んだ道なんだから信じないと。何か落ち込むことがあったとしても、信じて進むしかない”と言われた時に何かスッと落ちてきて“やっぱりこれでやっていけばいいんだ”って。父には面と向かって言えないですけどその言葉は一生忘れないだろうなと思います。

———挑戦したいことなど今後の夢はありますか。

神:あります! 最近5mとか10mとかのライブペイントをさせていただくことが増えてきているのですが、夢としてはもっともっと大きなものに描きたいです。それこそ50mとか巨大なものに挑戦したいです。単純ですけど大きいものってかっこいいじゃないですか(笑) 近い夢で言えばもうすぐ自身が節目の年になるので今までお世話になった方々に恩返しできるイベントや個展などをしたいですね。後、音楽も好きで音楽と映像とコラボレーションしたライブイベントもやってみたいですし、もう山のようにやりたいことがあります(笑)

自分で選んだ道だから
信じて進んでいく。



ライブペインター

神宝麻衣

Shinpo Mai

Profile

神宝 麻衣 shinPo mai

ライブペインター

女性と感情をテーマに、独創的な線画と不思議な組み合わせのグラデーションを使った作品を多く生み出す。高校で服飾デザイン学科を卒業、大阪でグラフィックデザインを学び、21歳アパレル会社にてTシャツデザインを担当。退職後、イラストレーター・デザイナー・ペインターとして展開しMARUME design という屋号で開業、アートディレクター・ペインターとして活動中。

商品を作る過程で 根元を知るって すごく大切。

キノシタショウテン代表取締役

木下尚之

Kinoshita Naoyuki

 ズブン
 my feelings
 ズブン

BAZ-K(以下、B):まず新店オープン、おめでとうございます。なぜ牛窓に新店をオープンしたのですか？

木下尚之(以下、木):いつか地元である牛窓に隠居してお店をしたいなと思っていて、60歳超えてぐらいいいなと思っていました。たまたま瀬戸内市を盛り上げたい方々の集まりがあり、“いっぱい空き物件があるんだけど”とお話いただきました。物件を何軒か見て、オリーブ園の2階も貸してくれるという話から、やろう!と決めました。

B:実際、珈琲店をやってみて反応はどうですか。

木:本当に好きな人が50人集まってくれたらいいなと。売上が低迷してでも良いから本当に珈琲が好きな人、もっと勉強したいっていう人が集まってくれたらそれでいいかなと。

B:店の作りもそういうコアな人が来ても楽しめる様になっているってことだね。ちょっとした内装の作り方、お水の注ぎ方、一番はV字のカウンター。

木:V字のカウンターで真ん中にバリスタが立って、両サイドにお客様が座っていて真ん中で作業する。作業は全部丸見え、お客様もすぐに話を聞ける状態。その臨場感だったりとか、バリスタにすぐに話しかけられるっていうちょっと特殊な内装です。

B:自店のこだわりとか差別化ってどういう風に考えてる？

木:『当たり前前を当たり前、普通のことを普通に』がお店のモットーなのでプロの珈琲屋として常に追求していく。国によって違う当たり前があるし、日本の珈琲の当たり前は何なのか、もう一步高いレベルのところをプロとしてお客様に提案していかなければいけない所だと思うので常に勉強ですね。

B:後は世界観が統一されているなど。すごく居心地いいし勉強になるなと思って。

木:海外に行くと日本人の接客はすごく良いって言われるけど、海外の気さくな接客であったり、気遣いは日本人には少ない。例えば、頼んでいた物が揃って食べています、ここに来て“全部揃っているか？美味しいか？何か困った事ないか？”といった気遣いが少ないかなと。個人レベルのお店でも技術プラス、人としてそれができるとどうかが差別化に繋がると思います。

B:オシャレな店ができたり、コンビニでも100円で本格派の珈琲が買えたりとか、僕らが日常に飲めるようになった、今の若い世代ってどう？

木:元々、“缶珈琲は美味しくないから飲まなくて良い”っていう人達がコンビニの珈琲を100円で飲んで、“コレくらい美味しいんだったらもっと美味しい物があるんじゃないか”と考える人が少なからずいると。普段は100円の珈琲を飲んで良いけど、休日とか家ではとか、こだわったものっていう人は確かに増えつつある。

B:今後地元だからできる事、やりたい事ってある？

木:畑を作って、自分達の使う物はその畑で作れるように、簡単じゃないけどやらないよりは、やってみる。利益にもならないし、人件費もかさむけど、それでもやってみることは必要かなって。せっかく整地した場所なので、逆に山に戻すとそれはそれでだめになるかなと思います。

B:日本の強みだよな。

木:どういう苦労があってどういう食材を使って自分達は商品を作れているのかっていうところは知らない。根元を知るってすごく大切で、珈琲豆も同じで一粒一粒、手で収穫しているのにそれをバサバサって“こぼれたから捨てよう、捨てないといけない”でなく、“こぼさないようにするにはどうしたら良いのか”を考えることが大切。珈琲豆を100粒作るのは大変なことだし。

B:地元だからできる事で、やりたくても中々出来ないじゃん。畑を持ちたくても、都会でとなると考えられない。そういう意味でも地元でできる事ってまだまだあるんじゃないかなって思う。

木:それは探してするんじゃなくて生活しながら発見していくっていうのが一番。町おこしを一生懸命あえてするんじゃなくて、一生懸命そこで暮らしをしていれば段々起きてくるもんだと。そんな人が増える程、町は活性化されていくんじゃないかなと思います。



木下尚之 Kinoshita Naoyuki (写真左)
キノシタショウテン代表取締役



Interviewer BAZ-K (写真右)
株式会社バズクリエーション代表取締役

JAPAN MOVE UP WESTの更なる活動の浸透と広がりを実現するために、
より具体的かつ大胆に様々なジャンルの“Rise!〜上昇〜”をバックアップ。自身の心にある熱い想い、夢などを聞く。
Rise!の先には必ず人間の生きる意味、生まれてきた意味が見えてくると確信する。

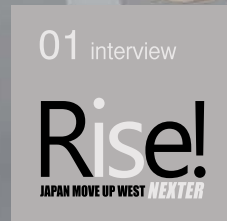
JAPAN MOVE UP WEST



中田 晴香



神宝 麻衣



木下 尚之



KENGO

FREE ^{JMUW} vol.33
Aug. 2018

Rise! FRONT INTERVIEW
-NEXTER-

木下 尚之

Rise! INTERVIEW-STREET-

神宝 麻衣

Rise! INTERVIEW-ATHLETE-

中田 晴香

Rise! INTERVIEW-ARTIST-

KENGO

FAGIANO OKAYAMA

仲間 隼斗

JAPAN MOVE UP WEST

